



2024年12月20日

株式会社鹿島アントラーズ・エフ・シー

日揮ホールディングス株式会社

株式会社レボインターナショナル

合同会社 SAFFAIRE SKY ENERGY

鹿島アントラーズがプロスポーツクラブとして初めて、国産 SAF 製造のために クラブ施設やスタジアムから出る廃食用油を供給

～Fry to Fly Project にも参画し、取り組みの周知にも貢献～

株式会社鹿島アントラーズ・エフ・シー（本社：茨城県鹿嶋市、代表取締役社長 小泉 文明、以下「アントラーズ」）、日揮ホールディングス株式会社（本社：横浜市、代表取締役会長 CEO 佐藤 雅之、以下「日揮 HD」）、株式会社レボインターナショナル（本社：京都市、代表取締役 CEO、越川 哲也、以下「レボインターナショナル」）、合同会社 SAFFAIRE SKY ENERGY（本社：横浜市、代表者 秋鹿 正敬、以下「SAFFAIRE SKY ENERGY」）の4社は、アントラーズのクラブ施設やスタジアムから排出される使用済み食用油（以下、廃食用油）を、国産の持続可能な航空燃料 SAF（Sustainable Aviation Fuel）製造の原料として供給することで、循環型社会の実現のために相互に協力する基本合意書を締結しました。スタジアムでは、アントラーズ試合日の売店から出る廃食用油を国産 SAF の原料として供給します。

プロスポーツクラブが基本合意書を締結し、廃食用油を国産 SAF 製造に供給する取り組みを行うのは、初めてとなります。

さらに、アントラーズは SAF で航空機が飛ぶ世界を実現するプロジェクト「Fry to Fly Project」に参画し、スタジアムでの周知活動を行うなど、本プロジェクトの輪を広げていきます。



©KASHIMA ANTLERS

アカデミーハウス
(主にプロを目指すユース選手が利用)



©KASHIMA ANTLERS

アントラーズカフェ
(選手含めた関係者用の食事スペース)

基本合意書に基づき、アントラーズのクラブ施設（クラブハウスカフェ、アカデミーハウス、雄飛寮）から出た廃食用油の回収・供給はすでに開始し、年間約 1,100 リットルの回収量を見込んでいます。本年 12 月より回収を開始したスタジアムの売店では、年間約 2,300 リットルを見込んでいます。

レボインターナショナルは、アントラーズの施設やスタジアムから出た廃食用油を収集し、SAFFAIRE SKY ENERGY が大阪府堺市で建設中の国産 SAF 大規模製造プラント向けに納入します。SAFFAIRE SKY ENERGY は、2025 年度初頭の供給開始を目指し、レボインターナショナルから納入された廃食用油を原料として SAF の製造を行います。日揮 HD は、廃食用油を原料とする SAF 製造事業に関するサプライチェーンの全体構築を行います。

アントラーズは地域密着型クラブとして、社会貢献と環境への配慮を重要な使命と位置づけています。地域資源の循環や脱炭素社会の実現に貢献したいと考え、今までも使用済みペットボトルのリサイクルボックスを設置したり、カーボンニュートラル LP ガスを導入したりという活動をおこなってまいりました。今回の取り組みを通じて施設やスタジアムで発生する廃食用油を SAF として再利用することで、サステナブルな未来に向けて地域社会のモデルケースとなるべく、環境負荷の最小化に取り組んでまいります。

アントラーズと日揮 HD、レボインターナショナル、SAFFAIRE SKY ENERGY の 4 社は今回の取り組みを通じて国産 SAF が供給できる体制を整えていきます。

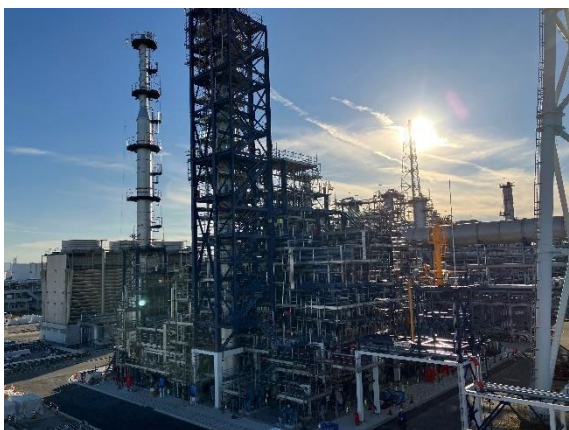
<SAF について>

SAF とは、Sustainable Aviation Fuel の頭文字をとったもので、日本語では持続可能な航空燃料と訳されます。原料となるバイオマスや廃食用油、都市ごみなどの生産・収集から、製造、燃焼までのライフサイクルで、従来の航空燃料に比べて温室効果ガスの排出量を約 80%削減することが可能です。また、既存のインフラをそのまま活用できる特徴があります。航空機は自動車などと違い電気や水素などの燃料では代替しにくいいため、SAF の利用による CO2 排出削減が世界で求められています。

<国内初となる SAF 大規模製造事業の概要>

日揮 HD、レボインターナショナルは、コスモ石油株式会社と共同で国内での廃食用油の収集から SAF の製造・輸送・供給に至るまでのサプライチェーン構築に向けて事業化検討を進め、2022 年 11 月 1 日付で新会社 SAFFAIRE SKY ENERGY を設立し、国内で発生する廃食用油のみを原料とした年間約 3 万キロリットルの SAF の供給を目指しています。なお、本事業は NEDO（国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構）より採択※を受けた助成事業です。

※NEDO ホームページ：https://www.nedo.go.jp/koubo/FF3_100312.html



建設中の SAF 製造装置
(コスモ石油堺製油所構内)



SAF の原料となる廃食用油受け入れ施設
(コスモ石油堺製油所構内)

<Fry to Fly Project について>

「Fry to Fly Project」は、家庭や店舗などで発生する使用済み食用油を原料とする SAF を用いて、航空機が飛ぶ世界を実現するプロジェクトです。プロジェクトは日揮 HD が発起人となって設立し、設立主旨に賛同する企業・自治体・団体が、家庭や飲食店など身近なところで発生する廃食用油の提供を通じて、日本国内における資源循環の促進に直接参加しています。

特設ホームページ <https://www.jgc.com/jp/esg-hsse/initiative/fry-to-fly/>



本件に関する報道関係の方からのお問合せ先

株式会社鹿島アントラーズ・エフ・シー

問い合わせ先 : team_pr@antlers.co.jp

日揮ホールディングス株式会社 戦略企画オフィス 経営企画ユニット 広報グループ 伊達 / 川島

電話 : 045-682-8026

株式会社 レボインターナショナル 運営管理部 総務課 広報・IR 係 奥村

TEL : 075-353-2277